

第1回校内研究資料

1 本年度研究主題について

思いや考えを 共に認め合い、高めあうことのできる児童の育成

～思考ツールを活用した話す・聞く活動を通して、伝え合う力を高める国語科指導方法の工夫～

(1) 主題設定の理由

これからの社会は、「知識基盤社会」の進展等、ますます変化が激しくなることが予測されている。そのような社会では、学校で学んだ知識や技能を基に「溢れる情報から必要な情報を取捨選択し、選んだ情報を活用する能力」の育成が、より一層求められている。児童には将来を見通し自立的に生き抜くための「生きる力」を身につけることが望まれている。この様な中で、学校教育法が一部改正され、「基礎的な知識・技能の習得」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」、「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」の三つの要素が特に重視すべきこととして示された。平成27年8月に出された「論点整理」では、これまで指摘されてきた社会像を継承するとともに、「将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会」が到来するとしている。こうした加速度的に変化する社会において、子ども達が社会に主体的に向き合い、よりよく関わっていくためには、学校教育を通じて育むべき「資質・能力」を明確にし、それらを教育課程全体の構造に位置づけ、日々の教育活動を展開することが求められている。

本校の児童は、元気あふれる子が多く、たくましい心を持った子も多い。しかし、自分の気持ちを相手に伝えるときに、適切な表現方法をとることができずに、感情的になりトラブルになることが多い。学習では、与えられた課題に取り組むことはできるが、主体的に学習しようとする児童は少ない。また、他者に対して自分の思いや考えを、根拠とともに明確に伝える「対話」や「議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考えを広げたりする力」は弱い。

本校は、これまで人権・同和教育の研究を長年にわたり積み上げてきた。また、「さわやかあいさつ・しっかり本読み・人にやさしい言葉遣い」を学校教育の合言葉として、教育活動を行ってきた。昨年度は、国語科を基にして、思考ツールを活用して話し合い活動を積極的に取り入れた指導方法を研究してきた。

学習過程としては、単元を貫く目標を掲げて学習計画を立て、学習課題の自力解決の時間(ひとりでタイム)、班やグループの話し合いの時間(ともだちタイム)、学級全体で話し合う時間(みんなでタイム)を設定し研究を進めた。その結果、自力解決した結果を班やグループで出し合い、目標に沿って話し合う姿が見られるようになった。

学校では、児童生徒一人一人が基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと自ら課題を見つけ、主体的に判断し、よりよく問題解決する資質や能力を育成する授業づくりを目指すことが重要である。学力の保障は人権教育の大きな柱であると考えます。

そこで、これまで本校で積み重ねてきた話し合い活動で育てた力を「伝え合う力」として深めることができるように、様々な授業の中で「問題解決」の場面を設定することにより、言語活動の充実を図り、自分の考えをしっかりと持ち、相手意識をもって伝え合う力を高める指導方法の工夫を研究する必要があると考える。

今年度の研究は3年計画の研究の3年次として、国語科の話す・聞く活動を通して伝え合う力をつけるために、適切な自己表現力を高める取り組みをしていくことが、本研究の趣旨に沿うと考える。

(2) 研究の目標と仮説

【目指す児童像】

基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、自分の考えをもち、他者とのかかわりの中でよりよく問題を解決することができる児童。

【研究の仮説】

児童が、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するためには、言語活動を効果的に位置付けて授業を展開することが重要である。このことにより、知識・技能を習得しつつ、その知識・技能の活用を図る授業を展開し、思考力・判断力・表現力等を育むことができる。このような研究を進めることで、児童は自分の考えを持ち、他者とのかかわりの中で相手の伝えたい事や思いを受け止めながら、自分の気持ちや考えを見直し、適切な表現方法を選択しながら自分の気持ちや考えを相手に伝え合う力を身に付け、お互いを理解し合い心がつながることができるようになることを考える。

- ・「**基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する**」ために、**単元レベルにおける問題解決型の学習を行う。**
- ・「**言語活動を効果的に位置付け**」るために、**今年度は研究の仮説で「自分の考えをもち、他者とのかかわりの中で相手の伝えたいことや思いを受け止めながら、自分の考えを見直し、適切な表現方法を選択しながら自分の気持ちや考えを相手に伝え合う力を身に付ける」とあるように、学習集団による意見の吟味・検討する場を授業の中に位置づけていく。**

学習形態は、PW（パーソナルワーク・いわゆる自力解決である。）GW（二人組やグループでの活動）・CW（クラスワーク）等である。このような場を設定し、自分の考えを相手に紹介したり、理由と根拠の区別をしながら主張を行ったり、それに対する確認質問・内容質問、反論を工夫したりすることである。

(3) 研究の内容と方法

【指導計画の工夫】

児童生徒一人一人に思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、指導計画を作成する際に、「習得・活用」の過程と、「探究」の過程を効果的に位置付け、両者を適切につなげることが重要である。

【授業展開の工夫】

初めに、言語活動を通して育てなければならない力を明確にする。育てなければならない力は、授業における本時の目標（重点化した評価規準）と、診断的評価から思考力・判断力・表現力等と考える。次に、課題解決の場面には、主な言語活動を設定する。ここでは、言語活動を通して知識・技能を活用したり、思考・判断したことを表現したりできるようにする。また、学習全体を通して、言葉の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 研究の実際

(1) 研究グループ

低学年・中学年・高学年の3つの学年グループを編成し、級外の教師も各グループに所属する。各グループには研究の推進役を1名おくことにする。研究授業後の話し合いは、学年グループで役割分担を行い進める。

(2) 全校研授業者は学年グループより1名。それ以外はグループ授業研を行う。

(3) 全校研究授業3回のほか、提案授業を1回行う。

(4) 低・中・高学年で役割分担を行い、授業実践の過程や記録を残す。

学年グループ ◎推進役	全校研授業者 学年グループより1名。	講師招聘 (昨年度より継続)
低学年 6名 ◎野中, 横田, 前田(文), 大園 岩本, 馬場	2年1組 授業者 野中佐栄子先生 単元名「つたえよう!わたしの一日」 ～読んで考えたことを話そう～ 10月8日(火)5校時	浦元奈美先生 (佐賀県教育センター 教育課程支援係長)
中学年 6名 ◎谷口(鈴里), 常盤, 山本, 田川, 前川 前田(秀)	4年2組 授業者 山本ミサ子先生 単元名「効果的な説明の技を見つけて、分かり やすい『佐志小クラブ活動リーフレット』を 作ろう」 11月27日(水)5校時	森田祐香先生 (西部教育事務所北部 支所指導主事)
高学年 6名 ◎山口, 坂井, 山崎 山下, 土井, 江川	6年2組 授業者 山下浩一郎先生 単元名「宮沢賢治作品の魅力を探ろう!」 11月20日(水)5校時 ※小中合同研	牛草美佳先生 (西部教育事務所北部 支所指導主任)

★グループ研は2学期までに終わり、3学期は授業実践を進めるとともに研究のまとめを作成する期間とする。

★指導案の形式は、提案授業のときに全職員で確認する。

★全校研3回で、各自グループ研を行うようにする。

★ **2年次の研究の柱**

学級で話し合う場(みんなでタイム)における支援方法の工夫

*2年次は、児童主導型に向けて実践を行ってきた。3年次も同様、児童主導型にチャレンジしていくが、各学年クラスの実態や能力に合わせて弾力的に行っていく。

*指導者は、何の目的で話し合いをさせているのかを忘れないようにするために、児童に話し合いの目的を示す。

◆拡散

◆拡散→収束の場合

多様性 (いろいろ), 分類 (仲間分け), 焦点化 (まとめ)

一般化 (淘汰), 吸収型 (ぐんぐん)

3 年間計画

月	全体会	備考
4 4/17	・校内研究会① 今年度の校内研究計画提示 共通実践事項 児童の実態把握 学習環境整備 など	春の遠足, 入学式 授業参観 学級懇談会 PTA総会
5 5/22	・校内研究② 指導案形式提案 (提案授業公開) ※児童のアンケート実施と考察	家庭訪問
6 6/5	・校内研究③ 研究のまとめ形式提案 学年グループの目指す児童像等の検討 全校授業者決定及びグループ研の日時 検討・決定 模擬授業かワークショップによる授業 イメージ作り	唐津市教育の日・授業参観
7	・校内研究④⑤ 授業作りの研修(思考ツールについて) *佐志メソッドの検討, 1学期のまとめ, 学調分析	期末懇談会・あゆみ作成
8	・校内研究⑥⑦⑧ 指導案検討会 研究のまとめについて	平和集会 宿泊訓練
9 9/4	・校内研究⑨ 全体授業研 1 (?) 授業実践・グループ研	運動会 読書感想文の取組
10	・校内研究⑩⑪ 全体授業研 2 (?)	授業参観・教育講演会 (?) 修学旅行・バス旅行
11	・校内研究⑫⑬ 全体授業研 3 (?) ・児童アンケート実施	授業参観・PTAバザー
12	・児童のアンケート考察 ・研究のまとめ提案 ・2学期まとめ, 学調分析	期末懇談会・あゆみ作成
1	・校内研究⑭ 研究のまとめ作成	
2	・校内研究⑮ 研究のまとめ仕上げ・製本 今年度の成果と課題の確認 次年度の方向性の検討	学習発表会 (?) 6年生を送る会
3		卒業式 期末懇談会・あゆみ作成 指導要録記入

※まとめ, 学調分析…国語科の各領域全体から, 児童の変容を見て検証を行う。